

いのちの岐路に立つ

核を抱きしめたニッポン国



●被爆・被曝者らが迫る

「核が問いかける 戦後日本の隠された真実」とは何か―

広島・長崎への原爆投下からフクシマまでを辿ると、「核を抱きしめたニッポン国」の輪郭が浮かぶ。
反核運動の分裂を経て、屈折した核をめぐる歴史に「平和」の内実を問い、融合・和解の道を探る。

8月6日夕刻、「安らかに眠れませんか 核兵器廃絶の日まで 全原発廃炉の日まで」と記した“とうろう”が
広島・元安川の川面を流れていく……。

長編ドキュメンタリー映画
「続・シロウオ」完成公開！



いまや、放射線危険管理区域マークが日本列島におおいかぶさっている。保守・革新やイデオロギー、老若男女を問わず、だれもが「いのちの岐路」に立つ。

“黒い雨”や“白い粉”の「死の灰」に恐怖しつつ逝った人びとへの鎮魂と核社会に生きとし生けるものへのメッセージ。

■監督：原村政樹 ■プロデューサー：矢間秀次郎
■撮影：一之瀬正史 原村政樹 ■録音：金田弘司
■音効：徳永由紀子 ■録音スタジオ：(株)モイ ■語り：中村敦夫